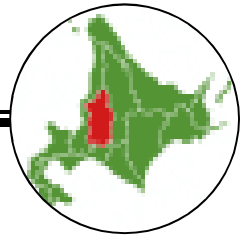


第6章 地域における主な環境保全の取組

＝【空 知】



1 「エコそらち」の構築に向けた環境配慮行動の普及啓発

空知総合振興局では、環境と調和した自然にやさしい「エコそらち」の構築を目指し、北海道らしい環境に配慮したライフスタイルの実践を図るため、「そらちエコラウンジ」事業を実施しています。

令和3年度（2021年度）は、環境月間（6月）に「ゼロカーボン北海道」をテーマとして、JR岩見沢駅構内の交流プラザで「道民環境行動月間パネル展 みんなでめざそう！ゼロカーボン北海道」を実施したほか、3R推進月間（10月）には、「ゼロカーボンパネル展～めざそうゼロカーボン北海道！やってみよう3R！～」と題し「ゼロカーボン北海道」や身近な取組で実行可能な「3R」を中心に、環境に関する取組を紹介するパネル展を開催しました。

今後も同事業を通じて、空知管内がエコの輪でつながっていくような効果的な取組を進めます。

■環境月間パネル展（6月）



■3R推進月間パネル展（10月）



2 空知地域におけるエゾシカの有効活用の推進

（1）令和3年度（2021年度）エゾシカ肉有効活用未来担い手育成事業

■エゾシカの部位を学ぶ様子 ■学んだことの発表の様子 ■親子でエゾシカ料理にチャレンジ



空知管内でのエゾシカ有効活用推進のためエゾシカ有効活用の未来の担い手である三笠高校調理部（将来のシェフ）を対象に以下に取り組んでいただきました。

- 1 エゾシカを学んでもらい、身近な問題として理解を深めるとともに、食材として取り上げてもらいやすくする。
- 2 三笠高校調理部の生徒に講師になってもらい一般の親子を対象としたジビエ料理教室を開催することで、エゾシカ肉を食べる機会を創出し、エゾシカ肉の家庭利用を促す。

1では被害を受けている農家の方や駆除をしているハンターのお話、食肉処理施設の方のエゾシカの部位の説明を熱心に生徒皆さんが学んでいました。

また、2では1で学んだことを一般の親子の皆さんに発表し伝えるとともに、家庭でも調理できるエゾシカ料理のレシピを開発し丁寧に教えていました。

(2) 空知地域エゾシカ肉有効活用需要喚起事業 「キャンプ・de・ジビエ in そらち」の開催

■イベントのチラシ



■試食を楽しむ参加者



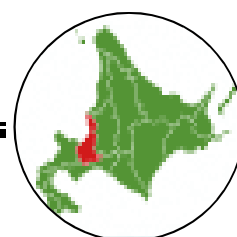
■制度周知のパネル展も開催



管内で初めて北海道認証を取得したエゾシカ肉処理施設が浦臼町に誕生したことを受け、その周知とコロナ禍の中でも人気のキャンプシーンでエゾシカ肉利用を提案するとともに、管内の需要を喚起し、エゾシカ肉有効活用を推進するため「キャンプ・de・ジビエ in そらち」を開催しました。

管内の有名なキャンプ場にて実施し、札幌の有名シェフに考案いただいた「キャンプに合わせたエゾシカ肉料理」は大変好評で、食後のアンケートでは90%以上の方が「またエゾシカ肉を食べたい」との回答を得ており、エゾシカ肉の普及啓発に寄与しました。

＝ 【石 狩】



1 振興局職員による脱炭素に配慮した率先行動

石狩振興局では、2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボン北海道」の実現に向けて、脱炭素の取組を足元から進めるため、令和3年（2021年）9月13日から10月31日までの7週間、職員自らが脱炭素に配慮した行動に率先して取り組み、行動変容と習慣化を目的とする「いしかりゼロカーボンアクション+（プラス）～7weeksチャレンジ～」を実施しました。

また、10月13日には、森林吸収源対策の一環として、当別町内の「道民の森（神居尻地区）」において若手職員による植樹体験を実施するとともに、座学や森林散策により森林づくりや地域木材利用の大切さについて理解を深めました。

■いしかりゼロカーボンアクション+（プラス）の取組ポスター



■植樹体験の様子



2 狩猟情報発信イベント（in チカホ）

狩猟者の減少や高齢化が深刻な課題となっていることから、石狩振興局では、野生鳥獣対策の担い手となる若手狩猟者の育成を図るため、令和4年（2022年）1月25～26日、札幌駅地下歩行空間で「狩猟情報発信イベント（in チカホ）」を開催し、狩猟に関するパネルや猟具、ヒグマやエゾシカの毛皮などの展示とともに、狩猟免許取得に関する相談ブースを設置し、道民のみなさまに向けて狩猟の魅力についての情報発信をしました。

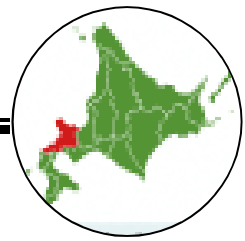
■狩猟情報発信イベント（in チカホ）



3 石狩地域エゾシカ・ヒグマ・アライグマセミナー

エゾシカやヒグマなどの野生鳥獣による農業被害や人身被害、生活環境被害が増加傾向にあることから、石狩振興局では、道民のみなさまに野生鳥獣の保護管理について理解を深めていただくことを目的として、令和4年（2022年）1月7～8日、北海道博物館の講堂で「石狩地域エゾシカ・ヒグマ・アライグマセミナー」を開催し、6名の専門家の方々に石狩地域における生息状況や被害状況、野生鳥獣対策等についてご講演をいただくとともに、参加者との意見交換を行いました。

＝【後 志】



1 環境保全に関する普及啓発活動

後志総合振興局では、環境月間の普及啓発活動として、令和3年（2021年）6月7日から11日まで、庁舎1階エントランスホールにおいて、のぼりの掲示のほか、普及啓発資材の配布等を行いました。

また、令和3年（2021年）7月13日に開催された「飲酒運転根絶の日決起大会」においてエコアンドセーフティドライブの普及啓発資材を配布しました。

後志総合振興局では、引き続き、管内の地域環境保全のための取組を推進していきます。

■環境月間の普及啓発の様子



■飲酒運転根絶の日決起大会の様子



2 大平山高山植物保護対策パトロール

島牧村にある大平山（オビラヤマ）は超塩基性の地質であることから、オオヒラウスユキソウ等の希少な高山植物等が生育しています。

これらの植物等を保全・保護し、盗掘などの被害が発生しないよう、後志総合振興局では令和3年7月に関係機関と合同で、大平山高山植物保護対策パトロールを実施し、その生育状況や登山道の状況確認を行いました。

今後もこの貴重な自然環境を保全・保護していくため引き続きパトロール活動を実施し、高山植物の生育状況の確認や入山者への普及啓発等、登山道等の修復及び注意標識の設置などを行っていく予定です。

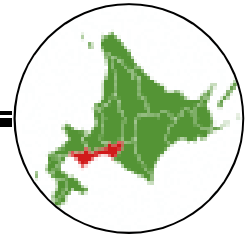
■オオヒラウスユキソウ



■大平山



＝【胆 振】



1 地球温暖化防止に向けた取組

胆振総合振興局では、平成20年（2008年）7月に開催された「北海道洞爺湖サミット」を契機とした地球温暖化防止に向けた気運の高まりを継続する取組のほか、ゼロカーボン北海道の実現に向けた様々な取組を行っています。

（1）いぶりガイアナイト 2021

「北海道クールアース・デイ」と連携し、平成21年（2009年）からガイアナイトイベントを開催しています。令和3年度（2021年度）は、7月7日に地球温暖化防止対策の取組のため、各家庭において電気照明を消してローソクの灯りの中で地球環境への思いを巡らせてもらう「ステイホームガイアナイト」を実施し、地域コミュニティFM（FMびゅう）を活用した呼びかけや、むろらん広域センタービルにおいてパネル展示を行い、エコキャンドルを配布しました。

併せて、CO₂削減ライトダウンキャンペーンとして、関係機関と連携し、室蘭のシンボルである測量山や白鳥大橋のライトダウンを行いました。

■ステイホームガイアナイト



（2）TEAM「ゼロカーボンいぶり」の発足

ゼロカーボン北海道の実現に向け、令和4年（2022年）2月28日にTEAM「ゼロカーボンいぶり」を発足しました。TEAM「ゼロカーボンいぶり」は、胆振管内で脱炭素の取組を実施している団体等のプラットフォームであり、令和3年度（2021年度）末時点で、産・官・学の109団体が参加しています。

■TEAM「ゼロカーボンいぶり」のロゴマーク



（3）いぶり環境サポーターズネットワーク事業

胆振管内では、身近な自然の復元を目的にピオトープ（生物群の生息場所）づくりを進めている「NPO法人ピオトープ・イタンキ in 室蘭」や、室蘭イタンキ浜の鳴り砂を後世に残すために清掃活動や子ども達に鳴り砂の大切さを教える活動を行っている「室蘭イタンキ浜鳴り砂を守る会」など、各種団体等による様々な環境保全活動が行われており、胆振総合振興局では、これらの団体等が実施する取組へ積極的に参加しています。

■室蘭イタンキ浜清掃活動



2 勇払原野の保全

苫小牧市の東部郊外、美々川下流に広がる面積275haのウトナイ湖は、日本有数の渡り鳥の越冬地、中継地で毎年マガン、ヒシクイ、オオハクチョウなど数万羽が飛来します。

湖の周辺の湿地と樹林帯では希少鳥類が繁殖や越冬し、これまでに260種以上の鳥類が確認されており、1981年（昭和56年）には公益財団法人日本野鳥の会により、日本初のバードサンクチュアリが設定されました。

1991年（平成3年）には、国際的に重要な湿地であることが認められ、北海道では3番目となるラムサール条約登録湿地に登録されました。

令和3年度はラムサール条約湿地登録から30年を迎えることから、苫小牧市と公益財団法人日本野鳥の会との共催で、これまでの湿原保全活動の成果とウトナイ湖周辺を含む勇払原野の重要性を伝えることを目的に、2021年（令和3年）11月3日に「ウトナイ湖ラムサール条約湿地登録30周年・ウトナイ湖サンクチュアリ開設40周年記念シンポジウム」が開催されました。

このイベントは当初、苫小牧市文化交流センターでの開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、急遽オンライン（Zoom ウェビナー）形式に変更して開催され、約100名が参加しました。

シンポジウムでは、勇払原野に生息する野鳥の生き生きとした姿や、希少種であるチュウヒなどの生息状況についてスライドで紹介されました。

また、苫小牧市から、ウトナイ湖がラムサール登録湿地になったことの効果と課題、勇払原野の保全についての発表があったほか、法政大学の高田雅之教授からは、産業都市である苫小牧市における湿地という点に着目した、都市における湿地の役割についての発表がありました。

その後4名の発表者により、勇払原野の保全について、活発な意見交換が行われ、ラムサール条約の3つの柱の一つである交流学习を通し、湿地の保全と賢明な利用について、参加者とともに考えることができました。

■講師とパネリストの皆さん

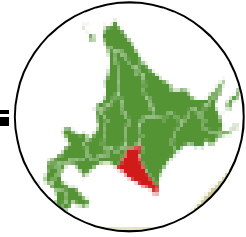


■ウトナイ湖秋の渡り



画像提供：（公財）日本野鳥の会

＝ 【日 高】



1 地球温暖化防止・3Rに関する取組

令和3年度（2021年度）、日高振興局では、3R推進月間である10月の取組として、10月21日・22日の両日、浦河町総合文化会館において浦河消費者協会が主催した「うらかわ消費生活展」に参画し、パネル展示のほか、リーフレット・リサイクル製品を配布するなどして地球温暖化防止・3R推進に関する普及啓発を行いました。また、11月16日には「浦河町消費生活大学」において、「ゼロカーボン北海道の実現に向けて」をテーマに、職員による講演を行いました。

■うらかわ消費生活展



■浦河町消費生活大学



2 新ひだか町静内での地域清掃活動

新ひだか町静内豊畑地域は、丘の上から牧場風景を見渡せる人気の眺望スポット「観農台」がある、自然豊かな地域です。日高振興局では、この地域の美化や景観維持を図るため、10月25日、新ひだか町、日高中部衛生施設組合及び協力企業との協働で清掃活動を行いました。

■新ひだか町静内豊畑地域の清掃活動



3 アポイ岳における高山植物盗掘防止の取組

日高山脈襟裳国定公園の南端に位置するアポイ岳は、標高810mという低標高ながら、ヒダカソウやエゾコウゾリナをはじめとした希少な固有種が多数みられる花の名山として知られています。

こうした希少な高山植物の不法盗掘を防止するため、毎年5月から6月にかけて振興局をはじめとした関係機関・団体が合同でアポイ岳の合同監視を行うとともに、登山者にリーフレット等を

配布する盗掘防止キャンペーンを実施しています。

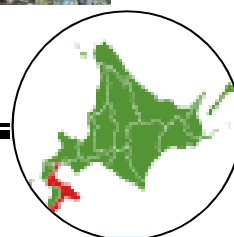
■ヒダカソウ



■エゾコウソリナ



＝【渡 島】



1 大沼の水質改善に向けた取り組み

渡島管内の観光名所の一つである大沼は、昭和55年（1980年）以降水質環境基準を超過しており、平成7年度（1995年度）に「北海道湖沼環境基本方針」に基づく重点湖沼に指定されました。

このため、渡島総合振興局では毎年、大沼の水質改善に向けた様々な取組を実施しており、令和3年度（2021年度）の取組として、「北海道フロンティアキッズ育成事業」の実施校となった「七飯町立大沼岳陽学校」と連携し、事業実施計画の一部を協同で実施しました。

渡島総合振興局は、PACテストによる大沼の水質調査体験や再生可能エネルギーに関する学習の時間を担当し、参加した児童にとって、普段気づきにくい大沼周辺の自然環境を改めて見つめ直す貴重な機会となりました。

また、地域の理想の未来図を描くという目標に向かって参加児童が一丸となって取り組む姿は、大沼の環境保全を推進する上で、大変心強く感じられました。

■大沼の水質調査体験



■地域の未来図を描こう



2 はこだてエコライフ展 2021

ゼロカーボン北海道推進の取組として、一人ひとりがライフスタイルや事業活動をより環境に配慮したものへと転換していくことの大切さを知っていただくため、令和3年（2021年）1月21日（日）から11月28日（日）まで、函館市等の共催によりシエスタハコダテ4階Gスクエアにおいて、「はこだてエコライフ展2021」を開催しました。

1月21日（日）はキックオフイベントとして、地域コミュニティFM放送である「FMいるか」の番組内で、「未来のはこだてエコライフ」と題し、2050年の脱炭素なまち・函館をテーマに、3名のゲストと北海道地球温暖化防止活動推進員との対談を行いました。

また、開催期間中はコロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、エコドライブ体験などの「体験コーナー」は中止となり、ゼロカーボン、エコライフやCOOL CHOICEに関するパネルや環境グッズの展示、エコベジ・レシピの紹介などの「展示コーナー」が主体となりましたが、クイズラリーでは、館内各所に設置されたエコライフに関するクイズに答えた方に、マイボトルなどのグッズをプレゼントしました。

チラシやポスター、渡島総合振興局のInstagramなどを利用して事前に開催周知を行い、約4,200人の参加がありました。

■キックオフイベント ラジオ番組

「未来のためのエコライフ」



■パネル展示会場



3 管内学校における環境学習の実施

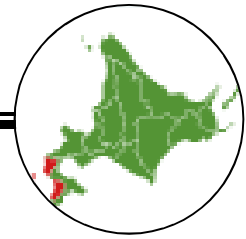
渡島総合振興局では、令和3年度から管内の小学校を対象に、自然環境や野生動物についての理解を深めてもらうために、環境学習を実施しています。

令和3年度は、七飯養護学校をはじめ複数の学校で、野鳥との付き合い方や外来種、ヒグマやエゾシカの実態についての授業を行いました。参加した生徒たちは、実際にシカの角や毛皮、ヒグマの手に触れ、その大きさに驚いていました。また、授業の後には松ぼっくりや木の枝などを使用した、工作活動なども行いました。

■環境学習の様子



＝【檜 山】



1 ひやまの環境教育

(1) ひやまりサイクル工作コンクール

檜山振興局では、平成 10 年度から管内の小学生を対象に「ひやまりサイクル工作コンクール」を開催し、身の回りの不要品を再利用した工作を通じて「物をできるだけ長く大切に使う」、「使わなくなった物は資源に回す」等の 3R に向けた意識を育てています。

令和 3 年度（2021 年度）で 24 回目を迎えた同コンクールは、環境教育イベントとして定着しており管内の 19 の小学校から、218 作品の応募がありました。作品は檜山振興局内で土日も含め展示、公開し、子どもから大人まで多くの皆様に御観覧いただきました。

■低学年の部 金賞受賞作品



■高学年の部 金賞受賞作品



(2) ひやま環境学習プログラム講座

管内の小学生が環境問題に関して学習する機会の充実を図るため、江差町内の小学校と連携し、ひやま環境学習プログラム講座を実施しました。

令和 3 年度（2021 年度）は、オンラインとリアルを併用して、体験型の水教育プログラムである「プロジェクト WET」を活用した檜山振興局職員による出前授業（5 年生対象）を行うとともに、地球温暖化対策を促進するために創設された「北海道地球温暖化防止活動推進員制度」を利用し、道南地域に在住する池田誠推進員から、6 年生を対象に、地球温暖化による生活環境への影響とその対策を解説してもらいました。

■プロジェクト WET の様子



■地球温暖化防止活動推進員による解説の様子



（３）檜山振興局ゼロカーボンパネル展

「ゼロカーボン北海道」の推進にあたり、地域住民の気候変動対策への気運醸成を目的に、パネル展を実施しました。

檜山管内の農・林・水産・商工の幅広い分野における脱炭素化への取組を道民の皆様に紹介しました。アンケートではゼロカーボン北海道や脱炭素化への意識向上などの回答があり、住民が気候変動対策を身近なものとして捉えるきっかけとなりました。

■パネル展の様子



（４）かもめ島の自然観察体験

檜山振興局では、毎年、自然に親しみ、環境に関する知識を普及するための事業として自然教室を開催しており、令和3年度（2021年度）は、10月9日に、江差観光コンベンション協会と協働して、「かもめ島の自然観察体験」を実施しました。

開催場所のかもめ島は日本海に突き出た美しい陸繋島で、檜山道立自然公園の特別地域にも指定されており、四季を通じて様々な野鳥を観察することができる探鳥地です。

小中学生とその保護者ら参加者9名は、「かもめ島野鳥観察ガイドブック」を片手に、オオセグロカモメやノスリなど10種類程度の野鳥を観察し、講師から、かもめ島で子育てをする野鳥などについて学びました。

■自然観察体験の様子



2 ひやまの環境保全活動 ～海岸や街並の環境美化～

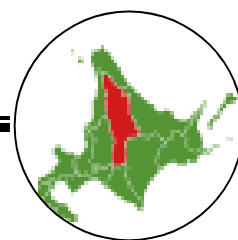
檜山管内は海や森林に囲まれた景観が美しい地域であり、管内の各町においては海岸や街並の環境保全に向けて、町内会等の住民団体、地元企業及び行政機関等との連携による環境美化活動（清掃活動）が毎年実施されています。

令和3年度（2021年度）の管内における環境美化活動には、新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、延べ約2,300名（檜山振興局調べ）の参加がありました。

こうした多くの参加者の協力により地域の環境保全が支えられています。

■江差町の清掃活動の様子





1 ふらの環境展 2021

上川総合振興局では、ふらの市民環境会議が開催した「ふらの環境展 2021（令和3年（2021年）10月1日～2日）」において、多くの道民に対し節電への意識向上及びゼロカーボン北海道への理解を深めていただくために、パネル展示及びみつろうキャンドル手作りキットや北海道認定リサイクル製品のせっけん、3R啓発ポケットティッシュなどの環境普及物品を配布しました。

■ふらの環境展の展示の様子



2 ガイアナイト

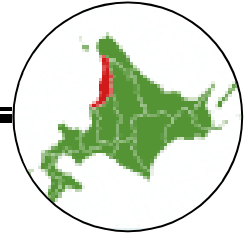
令和3年（2021年）7月12日～16日の5日間、上川合同庁舎1階大雪カムイミンタラホールにて、北海道地球温暖化対策条例で定める「北海道クールアース・デイ」の一環として、ガイアナイトを開催しました。

地球温暖化関係、3Rに関するパネルを展示したほか、来場者に地球に優しいエネルギーの利用や、3R推進の取組について理解していただくために、自然由来原料で作られたキャンドルを配布しました。

■ガイアナイトの展示の様子



＝ 【留 萌】



1 増毛山道再生の取組

日本海に面し断崖絶壁が続く雄冬海岸（雄冬岬）を貫く国道 231 号（増毛国道）は、昭和 56 年（1981 年）に全線開通しましたが、かつては茂津多岬、神威岬とともに西蝦夷地三險岬と呼ばれた交通の難所でした。この海岸線を迂回すべく、安政 4 年（1857 年）に江戸幕府の命を受けた増毛漁場請負人の商人 伊達林右衛門によって開削された道路が「増毛山道」です。

この山道は、その後の交通機関の発達等により、次第に利用者が減少し、昭和 16 年（1941 年）の武好駅通^{※1}（ぶよしえきてい）の廃止以後は利用する人もほとんどなくなり、いつしかネマガリダケ（チシマザサ）の藪に埋もれてしまいました。しかし、平成 21 年（2009 年）から留萌振興局と NPO 法人増毛山道の会が協働でその再生事業に着手し、その後、地元自治体や石狩振興局など関係機関の協力を得ながら、8 年の歳月をかけ平成 28 年（2016 年）10 月、石狩市浜益区幌から増毛町別荘までの全線 28km^{※2}の復元が完了しました。

毎年開催している増毛山道の会による山道体験トレッキングでは、暑寒別天売焼尻国立公園内の豊かな自然や増毛山地の山並、日本海の眺望のほか、武好駅通跡、当時の電信柱、橋の石積み跡、仏様の台座、遠く三河産花崗岩で造られた水準点標石等、北海道開拓を物語る多くの歴史的遺構を見ることができます。

令和 3 年度（2021 年度）は、全線復元後の増毛山道の適正な利活用や普及啓発、次世代への継承を図るため、SNS 等を使った山道に関する情報発信のほか、山道に関わる人材を育成するため、山道体験トレッキングのガイドを養成する研修会や山道の維持管理のためのササ刈りボランティア研修会を開催しました。

（注）※1 駅通（所）とは明治期に作られた北海道独自の制度で、宿泊・人馬継立・郵便等の業務を担った施設。

※2 増毛町岩尾までの分岐道を加えると全長約 33km。

■ガイド研修会



■ササ刈りボランティア研修会



2 海の漂着物展・地球温暖化防止普及啓発

留萌管内は全市町村が日本海に面しており、海岸には毎年多くのゴミや流木が漂着します。留萌振興局では6月の環境月間に合わせて「海の漂着物展」を開催し、留萌管内の沿岸に流れ着いたゴミや流木を展示するほか、海岸漂着物によって被害を受けた動物のパネルを掲げ、海岸漂着物に関心を高めてもらう活動をしています。

また、7月の「クールアースデー」では、身近な自動車について燃費よく走ってCO₂を減らし、交通安全にもつなげる「エコ&セーフティドライブ」として、シミュレーターによるエコドライブの模擬体験や、ゼロカーボンに向けたエネルギーとして注目される水素を利用した燃料電池自動車（FCV）を展示しました。

12月の「地球温暖化防止月間」では、多くの人々が地球温暖化防止に向けた行動を起こすきっかけとなるよう、地球温暖化に関するパネルの展示やDVDの上映、太陽光で動くペンギンのおもちゃ、風力でLEDが光るミニチュア風車といった再生可能エネルギーを使った模型を展示しました。

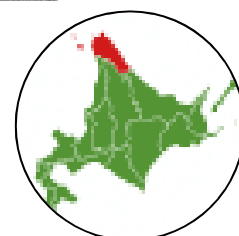
■海の漂着物展



■FCVの展示



＝【宗 谷】＝



1 礼文島の高山植物を守るために

利尻礼文サロベツ国立公園の礼文島は、レブンアツモリソウやレブンウスユキソウをはじめとした固有の植物のほか、丘陵状の地形に約300種もの高山植物群落が生育することから、花の浮島とも呼ばれています。島内には全7コース、全長約50kmにも及ぶ自然歩道があり、関係者が協力してこれらの歩道を管理しています。

宗谷総合振興局では、令和2年（2020年）10月に、岬めぐりコースであるゴロタ岬周辺の歩道の浸食等が進み、周辺の植生へ影響を与えている箇所などを、地元NPO法人や自然ガイド、行政機関職員により、椰子繊維の土嚢を使用して補修を行いました。

また、令和3年（2021年）7月には、関係機関等と連携し、盗掘監視パトロールを実施しました。

今後も、礼文島の自然を守りながら、持続的な利用ができるよう官民協働による取組を進めていきます。

■歩道補修の様子



2 宗谷クリーンアップ運動

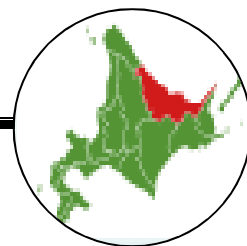
宗谷総合振興局では、北海道洞爺湖サミット開催（平成20年（2008年）7月）を契機として高まった道民の環境保全意識の持続を目的とした全道的な普及啓発活動の一環として、平成21年度（2009年度）から「宗谷クリーンアップ運動」を展開しており、管内各地の清掃活動への参加のほか、6月の環境月間におけるパネル展の実施や「宗谷クリーンアップサポーター宣言」の参加団体の募集を行っています。

令和3年度（2021年度）は、2箇所の清掃活動に参加し、サポーター団体数は令和4年（2022年）3月末現在で計66の個人・団体となっています。

■ 稚内市における清掃活動の様子



一 【オホーツク】



1 環境保全等に関する普及啓発活動

オホーツク総合振興局では、例年1月30日の「世界自然遺産・知床の日」にあわせてシンポジウムやパネル展等を開催していますが、令和3年度（2021年度）は2月の「オホーツク流氷の日」のイベントとあわせて令和4年（2022年）年1月から2月にかけて「ゼロカーボンオホーツク」ウインターイベントを企画しました。このオホーツクを代表する観光資源である「知床」、「流氷」をテーマとした企画では、知床自然遺産センターにおいて環境保全や「ゼロカーボン北海道」の普及啓発のためのパネル展を開催しました。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から講演会や体験コーナーの実施を見送りました。

また、新たな取組として網走市立図書館の協力により地球温暖化・気候変動関連情報、北海道の取組等を紹介する企画展示を開催し、パネル、関連図書の展示を行いました。

■ 知床自然遺産センターでの展示



■ 網走市立図書館の企画展示



2 オホーツク動物愛護週間イベント

9月の動物愛護週間に、オホーツク総合振興局庁舎内において、動物愛護についてのパネル・ポスター展を開催しました。

令和3年度動物愛護週間のテーマである「私たちがつくるペットとのこれから」に関するパネル・ポスターを展示し、その他にも狂犬病予防や動物の飼い方のマナーに関するパネル・ポスターも展示しました。

例年実施している獣医師会や動物愛護推進員、ボランティアの方々と協働で実施している講演会や体験コーナーなどのイベントは、新型コロナウイルスの感染状況等を踏まえ、実施を見送りました。

■ポスターやリーフレット設置



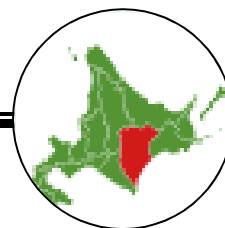
■動物愛護パネル・ポスター展示



■動物愛護週間テーマ



＝【十 勝】＝



1 スカイパトロールの実施

不法投棄や野焼き等の廃棄物不適正処理の早期発見及び早期対応に向けて、ヘリコプターを使用して上空から広域監視を行うため、当課職員が搭乗し、上空からビデオカメラにより運行地域及び廃棄物不適正処理の見受けられる地点（疑いのある地点を含む。）の画像記録を実施しました。その結果、不適正処理の疑いを9件発見し、その後の地上調査において9件全てを不適正処理として特定し、指導を継続しています。

■スカイパトロールの様子



2 携帯トイレ配布ボックス設置・登山者へのアンケート調査

十勝総合振興局では、平成29年(2017年)から環境省、新得山岳会等と協力して「トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト」を展開し、大雪山国立公園内トムラウシ山の南沼野営指定地での排泄物やトイレ用紙の放置、岩陰に向かう登山者が高山植物を踏み裸地化したトイレ道などの「山のトイレ問題」に取り組んでいます。

令和3年(2021年)7月には、携帯トイレを手軽に入手できるよう、登山口に配布ボックスを設置しました。また、8月には携帯トイレ普及の実情を知るため、登山口で登山者48人にアンケート調査を行い、携帯トイレ使用を呼びかけました。携帯トイレの認知度は高い水準でしたが、日帰りのため携帯トイレを所持していない登山者もいて、所持率は64%に留まり、今後も「山のトイレ問題」解決に向けた活動を続けることとしています。

■登山口に設置した携帯トイレ配布ボックス



■登山者へのアンケート



3 日高山脈襟裳国定公園の国立公園化に向けたパネルディスカッション

令和4年（2022年）3月、十勝総合振興局と日高振興局の共同で、パネルディスカッション「日高山脈襟裳国定公園の国立公園化に向けた魅力発信と観光資源について」を開催しました。北海道大学大学院の愛甲准教授をコーディネーターに迎え、地元で活動するパネリスト4名がそれぞれの立場から、地元住民が期待すること、日高山脈とその山麓地域の魅力、日高山脈の植物保護や活動の課題、国立公園化の意義や地域への期待等、国立公園化に伴う課題と対策を議論しました。また、当日の様子は録画し、Youtubeで配信しました。

■パネルディスカッションの様子



4 地球温暖化防止対策イベント「ガイアナイト」の実施

「北海道クールアース・デイ」の取組の一環として、帯広市及び帯広市図書館の協力のもと同図書館において啓発チラシを同封したキャンドルセットを配布し、地域の皆様が各自、自宅でキャンドルを灯すことで、地球環境に思いをめぐらせる機会につなげる取組を行いました。

また、「帯広大谷短期大学図書館ボランティアサークルあすばら、半熟たまごクラブ」の協力のもと音更町図書館において、絵本読み聞かせイベントの実施、トーンチャイムの演奏及びキャンドルの配布を行いました。

■ガイアナイトの様子



■絵本読み聞かせイベントの様子



5 北海道リサイクルブランドフェアinとかち・市民「環境交流会」2021の開催

帯広市が主催した「とかち・市民『環境交流会 2021』」に出席し、環境活動への参加の推進を図るため、北海道リサイクル製品認定制度の紹介、ゼロカーボン北海道、外来種問題などに関するパネル展や循環型社会に資する製品づくりについての講演を実施しました。

■講演会の様子



6 地球温暖化防止セミナー（地域環境学習普及事業）の開催

地域で社会貢献活動を実施している環境コンサルタント会社の方や北海道地球温暖化防止活動推進員を講師にお招きし、北海道や地域の取組、家庭でできる対策についてお知らせする「地球温暖化について、ゼロカーボンとSDGsの面から知ろう！」を開催しました。

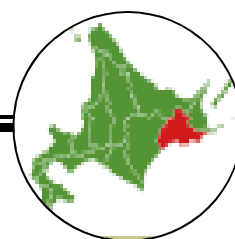
7 ゼロカーボンパネル展の実施

地球温暖化対策に関する情報を地域住民の方や職員に周知するために、年間を通じて様々な取組を庁舎1階ロビーにて紹介しています。

■パネル展の様子



＝【釧路】



1 タンチョウ越冬分布調査

タンチョウ越冬分布調査は、北海道が環境省の委託を受け、関係機関（市町村、教育委員会、釧路市動物園など）の協力を得て、毎年12月と1月の2回行っています。平成29年度（2017年度）からは、北海道と包括連携協定を締結している日本航空株式会社（JAL）が参加し、令和元年度（2019年度）には、初めて釧路市以外の小学校が参加するなど、調査者が増え、きめ細やかな調査が可能となりました。



この調査は、タンチョウの保護増殖を図る上での重要なデータとなるだけでなく、小・中学校の児童生徒の環境教育や関係機関の相互連携の推進などにも役立っています。

令和3年度（2021年度）は、12月に9振興局で、937羽（うち釧路管内760羽）、1月は7振興局で1,525羽（うち釧路管内1,418羽）が確認されました。

2 環境月間パネル展における環境啓発の実施

「環境月間パネル展」は、地域の人々の環境に対する認識の醸成を図り、自発的な環境配慮行動の促進を図ることを目的とした釧路市が主催のイベントで、環境問題への理解が深まるパネルが多数展示され、環境への思いを共有できる場となっています。

令和3年度（2021年度）は、6月の環境月間に釧路市の3カ所の公共施設で1週間ずつ（計3週間）開催され、釧路総合振興局では、地球温暖化の緩和と適応をテーマにパネルを展示したほか、省エネの促進のため啓発グッズの配布などを行いました。

■パネル展の様子



3 不法投棄防止に向けた街頭啓発の実施

釧路総合振興局では、10月の廃棄物適正処理推進月間に合わせ、令和3年（2021年）10月22日、「釧路広域連合」において、公益社団法人北海道産業資源循環協会道東支部と合同で不法投棄防止に向けた啓発活動を行いました。「不法投棄は地球を汚すレッドカード」と訴えかけるのぼりを掲げ、ティッシュ・軍手・エコバッグなどを配布し、不法投棄が犯罪であることを呼びかけました。

■街頭啓発の様子



4 くしろガイアナイト2021～みんなでめざそうゼロカーボン～における環境啓発の実施

釧路では平成20年（2008年）から24年（2012年）と平成30年（2018年）から令和元年（2019年）にろうそくの灯りのもとで地球環境を考えるガイアナイトを開催しています。

令和3年度（2021年度）は「おうちでガイアナイト」として、釧路市こども遊学館でパネルを展示、啓発グッズを配布したほか、配布したキャンドルを自宅で点灯し、SNSにその写真を投稿してもらい、投稿された写真を釧路市こども遊学館に掲示し、HPにも掲載しました。

■ガイアナイトの様子



5 ゼロカーボン北海道の推進について

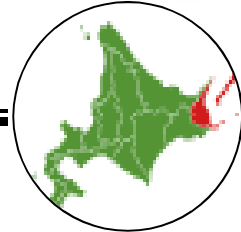
地球温暖化対策として世界的に脱炭素の動きが加速する中、釧路管内においては全ての市町村が『ゼロカーボンシティ』を宣言しています。

釧路総合振興局では、地球温暖化への理解が深まる子ども向けの動画を作成し、北海道公式 YouTube で公開しています。

■子ども向けの動画の一部



＝【根 室】



1 世界自然遺産・知床の日

根室振興局では、1月30日の「世界自然遺産・知床の日」について、道民に広く浸透させることを目的として、令和4年（2022年）1月21日～31日までの間、振興局の道民ホールにおいて、パネル展を実施し、「世界自然遺産・知床の日」の啓発活動を行いました。

■パネル展の様子



2 根室地域産エゾシカ肉の有効活用促進事業における料理教室の開催など

根室管内で捕獲されるエゾシカの肉を有効活用することを目的として協議会を設立し、平成30年（2018年）から、根室産エゾシカ肉（根室ディア）の知名度向上や管内の流通促進のための取組を進めてきました。

令和3年度（2021年度）は、一般家庭における根室ディアの消費拡大を図るため、料理教室を対面形式で2回、オンライン形式で2回開催するとともに、根室ディア料理の実演動画を撮影、北海道公式サイトの北海道庁インターネット放送局「Hokkai・Do・画」で公開するなど、エゾシカ肉の消費拡大のためのPR活動を行いました。

■実演動画の画像



■料理教室の様子



3 エコスクール・地球環境モニタリングステーション-落石岬説明会の開催

子どもたちが地球温暖化などについて理解を深めることにより、環境と人間の関わり、環境保全の重要性を学ぶことを目的として、平成10年（1998年）から、国立環境研究所地球環境研究センターの協力のもとエコスクールを開催しています。

令和3年度（2021年度）は、新型コロナウイルス感染症対策のためオンライン方式を併用し、根室市と共同で9月28日（火）に開催しました。根室市立海星小学校及び同落石小学校5、6年生の生徒16名を対象に、国立環境研究所による落石岬地球環境モニタリングステーションの中継や河瀬北海道地球温暖化防止活動推進員による地球温暖化に関する環境学習会などを行いました。

■エコスクールの様子（左：海星小学校 右：落石小学校）

